

(19) 日本国特許庁 (JP)

(12) 登録実用新案公報 (U)

(11) 実用新案登録番号

実用新案登録第3215537号
(U3215537)

(45) 発行日 平成30年3月29日 (2018. 3. 29)

(24) 登録日 平成30年3月7日 (2018. 3. 7)

(51) Int. Cl. F 1
A 4 4 C 1/00 (2006. 01) A 4 4 C 1/00

評価書の請求 未請求 請求項の数 2 O L (全 7 頁)

(21) 出願番号	実願2018-113 (U2018-113)	(73) 実用新案権者	502187689
(22) 出願日	平成30年1月15日 (2018. 1. 15)		
		井上 智恵子	
		埼玉県三郷市花和田 1 3 6 の 1 0	
		(74) 代理人	100073689
		弁理士 築山 正由	
		(72) 考案者	井上智恵子
		埼玉県三郷市花和田 1 3 6 - 1 0	

(54) 【考案の名称】 身飾品留め具

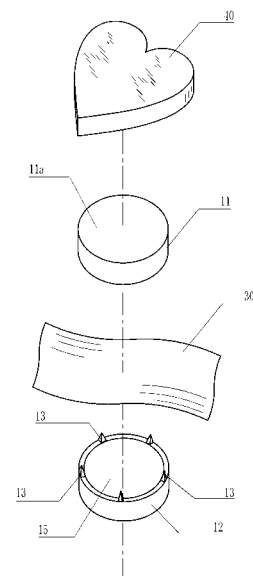
(57) 【要約】

【目的】磁石を用いながらも容易にずれることのない身飾品留め具を提供すること。

【構成】請求項 1 に記載の考案は、身飾品を取り付け可能な第一の枠体に磁石を取り付け、当該第一の枠体に対向して配置した第二の枠体に磁石を取り付けると共に、第一の枠体に対向する面に複数の爪を設けて構成した。

請求項 2 に記載の考案は、請求項 1 に記載の身飾品留め具において、第一の枠体に磁石を該磁石が突出する形態で取り付け、第二の枠体の第一の枠体に対向する面の周縁部に、複数の爪を、該複数の爪内に第一の枠体に取り付けた磁石が収納される位置に設けて構成した。

【選択図】 図 1



【実用新案登録請求の範囲】**【請求項 1】**

身飾品を取り付け可能な第一の枠体に磁石を取り付け、
当該第一の枠体に対向して配置した第二の枠体に磁石を取り付けると共に、第一の枠体
に対向する面に複数の爪を設けた身飾品留め具。

【請求項 2】

第一の枠体に磁石を該磁石が突出する形態で取り付け、
第二の枠体の第一の枠体に対向する面の周縁部に、複数の爪を、該複数の爪内に第一の
枠体に取り付けた磁石が収納される位置に設けた請求項 1 に記載の身飾品留め具。

【考案の詳細な説明】

10

【技術分野】**【0001】**

本考案は衣服の襟や袖、胸元などにネックレスやブローチ、ペンダント等の身飾品を取
り付けるための留め具に関する。

【背景技術】**【0002】**

ブローチを衣服に取り付ける際には、ブローチの裏面に設けられた針を衣服に刺して固
定するのが一般的である。しかし係る固定方法では、衣服に針穴が残ってしまうという難
点がある。

【0003】

20

そこで、ブローチ等を衣服に固定させる方法として磁石を採用し、着脱が自由で、且つ
、ブラウスやネクタイ等に針穴の跡が残らないようにした磁石式アクセサリが種々提案
されている。

【0004】

例えば、実開昭 63-117309 号公報（特許文献 1 参照）には、アクセサリの裏
に磁石を取り付け、該磁石ともう一つの磁石で布を挟むようにした磁石付きアクセサリ
が提案されている。

【0005】

また、実開平 6-41517 号公報（特許文献 2 参照）には、デザイン塗装した磁石で
衣服を挟んで固定するアクセサリが開示されている。

30

【先行技術文献】**【特許文献】****【0006】**

【特許文献 1】 実開昭 63-117309 号公報

【特許文献 2】 実開平 6-41517 号公報

【考案の開示】**【考案が解決しようとする課題】****【0007】**

上記磁石式のアクセサリによれば衣服に針穴が残ることはない。しかし、磁力のみで
固定すると、当該磁石式のアクセサリが容易にずれてしまうという難点がある。

40

【0008】

そこで本考案は、磁石を用いながらも容易にずれることのない身飾品留め具を提供する
ことを目的とする。

【課題を解決するための手段】**【0009】**

上記課題を解決する本考案の構成は、以下の通りである。

【0010】

(1) 請求項 1 に記載の考案は、身飾品を取り付け可能な第一の枠体に磁石を取り付
け、当該第一の枠体に対向して配置した第二の枠体に磁石を取り付けると共に、第一の枠
体に対向する面に複数の爪を設けて構成した。

50

【0011】

(2) 請求項2に記載の考案は、請求項1に記載の身飾品留め具において、第一の枠体に磁石を該磁石が突出する形態で取り付け、第二の枠体の第一の枠体に対向する面の周縁部に、複数の爪を、該複数の爪内に第一の枠体に取り付けた磁石が収納される位置に設けて構成した。

【考案の効果】

【0012】

上記のように構成される本考案が、如何に作用して課題を解決するかを図面を参照しながら概説する。

【0013】

図1及び図2は、請求項1に記載の考案の使用状態を示す説明図である。請求項1に記載の考案に係る身飾品留め具10は、第一の枠体11及び第二の枠体12で、衣服を構成する布体30を挟持するものである。この際、第一の枠体11には磁石14が、第二の枠体12には磁石15が取り付けられていることから、両者が磁性で引き合い固定されるものである。

【0014】

しかも第二の枠体12には爪13が複数設けられていることから、図2に示すように布体30に爪13が引っ掛かり、身飾品留め具10がずれることを可及的に抑制することが可能となるのである。

【0015】

図3乃至図5は、請求項2に記載の考案の使用状態を示す説明図である。請求項2に記載の考案に係る身飾品留め具20は、第一の枠体21及び第二の枠体22で、衣服を構成する布体30を挟持するものである。この際、第一の枠体21には磁石24が、第二の枠体22には磁石25が取り付けられていることから、両者が磁性で引き合い固定されるものである。

【0016】

しかも、第二の枠体22には爪23が複数設けられていることから、図4に示すように布体30に爪23が引っ掛かり、身飾品留め具20がずれることを可及的に抑制することが可能となるのである。

【0017】

更には第一の枠体21に取り付けられた磁石24は、枠体21から突出しており、しかも第二の枠体22の爪23は該磁石24が収納される位置に設けられていることから、図5に示すように磁石24の突出した部分が爪23により布体30を介して係止される。つまりは第二の枠体22は布体30に爪が引っ掛かることでずれが抑制され、第一の枠体21は突出した磁石24が爪23に係止されることでずれが抑制される。かようにして請求項2に記載の考案では、より留め具20のずれが抑制されるものとなる。

【0018】

図9は本考案に係る身飾品留め具10,20を衣服の襟口に2個設け、当該身飾品留め具10,20間に身飾品40をかけ渡し、ネックレス状に実施した状態を示したものである。かかる実施形態によればチェーン41が着用者の皮膚に直接触れることがなく、金属アレルギーなどの発症を防ぐことも可能となる。

【0019】

また、本考案は身飾品留め具が、上記の通りずれることなく強固に対象に固定されることから、毛髪にも取り付けることが可能であり、ヘアアクセサリ用の留め具としても利用可能である。

【図面の簡単な説明】

【0020】

【図1】請求項1に記載の考案の使用状態を示す説明図

【図2】請求項1に記載の考案の使用状態を示す説明断面図

【図3】請求項2に記載の考案の使用状態を示す説明図

10

20

30

40

50

【図４】請求項２に記載の考案の使用状態を示す説明断面図

【図５】請求項２に記載の考案の使用状態を示す説明断面図

【図６】本考案の他の実施形態を示す説明図

【図７】本考案の他の実施形態を示す説明断面図

【図８】第一の枠体に身飾品を嵌め込んだ状態を示す説明図

【図９】本考案の実施例を示す説明図

【考案を実施するための形態】

【００２１】

以下、好ましい本考案の構成要素の実施形態につき、図面を参照しながら概説する。なお、本考案構成要素の実施形態は、下記の実施形態に何ら限定されることはなく、本考案の技術的範囲に属する限り、種々の形態を採りうる。

10

【００２２】

本考案に係る身飾品留め具１０、２０は、アクセサリその他の身飾品４０を、第一の枠体１１、２１の第二の枠体１２、２２に対向する面と反対側の面１１ａ、２１ａに固定して実施される。この際、図６や図７に示されるように面１１ａ、２１ａを凹状に形成し、当該凹部に図８に示されるように身飾品４０を嵌め込んで実施してもよい。

【００２３】

図２に示されるように、請求項１に記載の身飾品留め具１０においては、第一の枠体１１に磁石１４を、第二の枠体１２に磁石１５を取り付けてある。具体的には第一の枠体１１、第二の枠体１２それぞれに設けられた凹部１６、１７に磁石１４、１５をそれぞれ嵌め込み固定するものである。

20

【００２４】

請求項１記載の考案では、図１に示すように第二の枠体１２における第一の枠体に対向する面に、複数の爪１３・・・を設けてある。この際爪１３・・・を設ける位置は特段の規制を受けない。

【００２５】

図３乃至図５に示されるように、請求項２に記載の身飾品留め具２０においては、第一の枠体２１に磁石２４を、第二の枠体２２に磁石２５を取り付けてある。具体的には第一の枠体２１、第二の枠体２２それぞれに設けられた凹部２６、２７に磁石２４、２５をそれぞれ嵌め込み固定するものである。

30

【００２６】

この際、第一の枠体２１に嵌め込まれた磁石２４は、第一の枠体２１から突出する形態で嵌め込まれる。この突出した部分が爪２３により係止され、第一の枠体２１と第二の枠体２２のずれを抑制するものである。

【００２７】

請求項２記載の考案では、図３に示すように第二の枠体２２における第一の枠体に対向する面の周縁部に、複数の爪２３・・・を設けてある。この際、該複数の爪２３・・・と第一の枠体に取り付けた磁石２４の突出部位の位相は、爪２３・・・内に磁石２４の突出部位が収納される位置関係にある。

【００２８】

40

具体的には、第一の枠体２１と第二の枠体２２が図示されるように円筒形状であり、磁石２４が円柱状の場合は、第二の枠体２２の頂部の円周上縁部に爪２３・・・を設け、図４に示されるように直径線上に位置する爪２３、２３の付け根間の距離Ｈ１が磁石２４の直径Ｈ２よりも大きくなる位置に爪２３・・・は設けてある。

【００２９】

なお、各図や上記文は身飾品留め具１０、２０を円柱状のものとして記述しているが、むろんかかる限定を受けるものではなく、直方体状や立方体状のものとしても実施可能である。

【符号の説明】

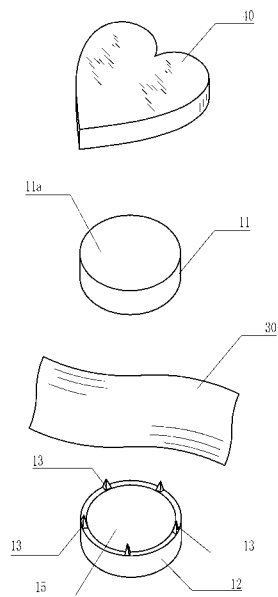
【００３０】

50

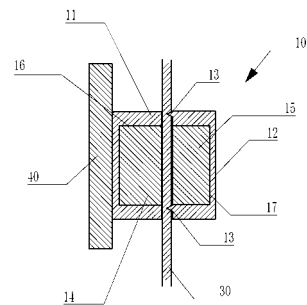
- 10・・・身飾品留め具
- 11・・・第一の枠体
- 12・・・第二の枠体
- 13・・・爪
- 14・・・磁石
- 15・・・磁石
- 16・・・凹部
- 17・・・凹部
- 20・・・身飾品留め具
- 21・・・第一の枠体
- 22・・・第二の枠体
- 23・・・爪
- 24・・・磁石
- 25・・・磁石
- 26・・・凹部
- 27・・・凹部
- 30・・・布体
- 40・・・身飾品

10

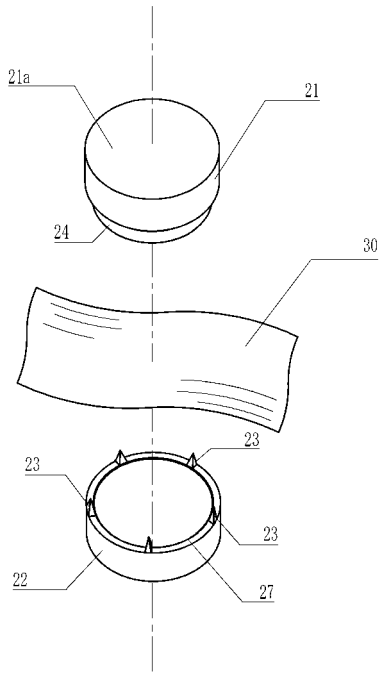
【図 1】



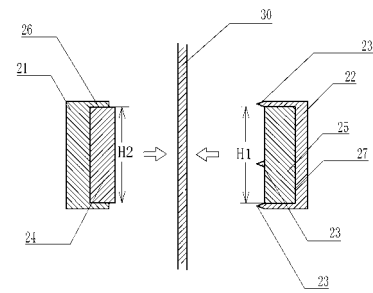
【図 2】



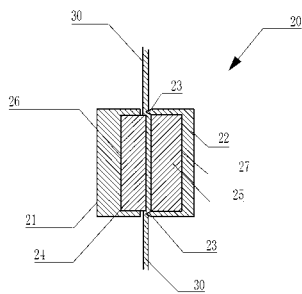
【図 3】



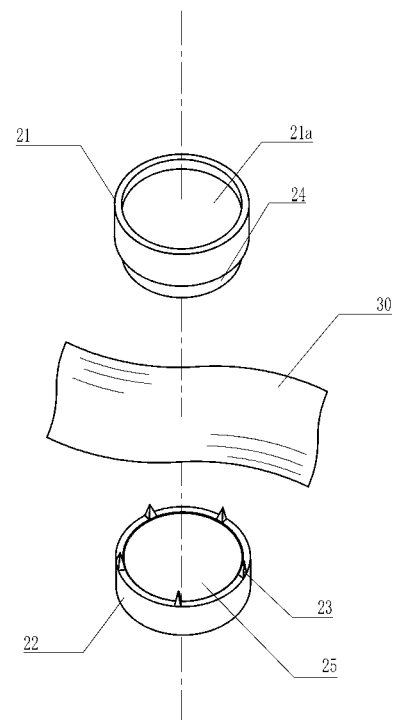
【図 4】



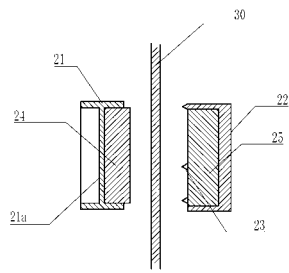
【図 5】



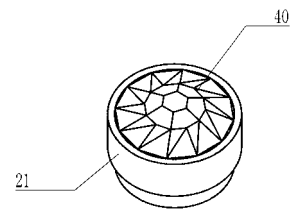
【図 6】



【図 7】



【図 8】



【図 9】

